

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

文語訳 ツアラトゥストラかく語りき

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

Friedrich Nietzsche ALSO SPRACH ZARATHUSTRA Ein Buch für Alle und Keinen
ニイチエ著 生田長江訳 文語訳 ツアラトウストラかく語りき 書肆心水
SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

目 次

(第一部)

ツアラトウストラの序説	Zarathustras Vorrede	23
三段の変形	Von den drei Verwandlungen	44
徳の講座	Von den Lebsstühlen der Tugend	47
背世界者	Von den Hinternweltlern	51
肉体の侮蔑者	Von den Verächtern des Leibes	55
悦楽と欲情と	Von den Freuden- und Leidenschaften	58
蒼白の犯罪者	Vom bleichen Verbrecher	61
読書と述作と	Von Lesen und Schreiben	64
山上の樹	Vom Baum am Berge	67
死の説教者	Von den Predigern des Todes	71

戦争と戦士と	<i>Vom Krieg und Kriegsvölke</i>	74
新しき偶像	<i>Vom neuen Götz'en</i>	77
市場の蠅	<i>Von den Fliegen des Marktes</i>	81
貞潔	<i>Von der Keuschheit</i>	85
友人	<i>Vom Freunde</i>	87
千有一個の標的	<i>Von tausend und einem Ziele</i>	90
隣人愛	<i>Von der Nächstenliebe</i>	93
創造する者の道	<i>Von Wege des Schaffenden</i>	96
老いたる女と若き女	<i>Von alten und jungen Weiblein</i>	100
蝮蛇の毒	<i>Vom Biß der Natter</i>	104
小児と結婚と	<i>Von Kind und Ehe</i>	107
自由なる死	<i>Von freien Tode</i>	110
与うるの徳	<i>Von der schenkenden Tugend</i>	114
第一部	<i>Zweiter Teil</i>	
鏡をもてる小児	<i>Das Kind mit dem Spiegel</i>	123
幸福なる島にて	<i>Auf den glücklichen Inseln</i>	125
慈悲深き者	<i>Von den Mitleidigen</i>	130

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

祭司等	<i>Von den Priestern</i>	134
有徳なる者	<i>Von den Tugendhaften</i>	138
賤民	<i>Vom Gesinde</i>	142
毒蜘蛛	<i>Von der Tarantel</i>	146
高名の智者	<i>Von den berühmten Weisen</i>	151
夜の歌	<i>Das Nachthied</i>	155
舞の歌	<i>Das Tanzlied</i>	158
墓の歌	<i>Das Grablied</i>	162
自己超克	<i>Von der Selbst Überwindung</i>	166
崇高なる者	<i>Von den Erhabenen</i>	171
文化の国	<i>Vom Lande der Bildung</i>	175
無垢の認識	<i>Von der unbefleckten Erkenntnis</i>	179
学者	<i>Von den Gelehrten</i>	183
詩人	<i>Von den Dichtern</i>	186
大事変	<i>Von großen Ereignissen</i>	190
預言者	<i>Der Wahrsager</i>	195
救済	<i>Von der Erlösung</i>	200
男性的細心	<i>Von der Menschen Klugheit</i>	206
いと静かなる時	<i>Die stillste Stunde</i>	210

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

第三部 *Dritter Teil*

漂泊者	<i>Vom Gesicht und Räsel</i>	<i>Der Wanderer</i>	217
幻影と謎	<i>Von der Schigkeit wider Willen</i>	<i>Vom Gesicht und Räsel</i>	221
意の如くだらぬ福祉	<i>Vor Sonnen-Aufgang</i>	<i>Von der Schigkeit wider Willen</i>	223
日出前	<i>Auf dem Ölberg</i>	<i>Vor Sonnen-Aufgang</i>	233
矮小ならしむるの徳	<i>Von der verkleinernden Tugend</i>	<i>Auf dem Ölberg</i>	237
橄欖山	<i>Vom Völkergesch</i>	<i>Auf dem Ölberg</i>	245
通過	<i>Von den Abtrünnigen</i>	<i>Vom Völkergesch</i>	249
背教者	<i>Die Heimkehr</i>	<i>Von den Abtrünnigen</i>	253
帰郷	<i>Von den drei Bäuen</i>	<i>Die Heimkehr</i>	258
三 惡	<i>Von Geist der Schwere</i>	<i>Von den drei Bäuen</i>	263
重圧の精神	<i>Von alten und neuen Tagen</i>	<i>Von Geist der Schwere</i>	269
新旧の表板	<i>Der Genezende</i>	<i>Von alten und neuen Tagen</i>	275
快癒期にある者	<i>Von der großen Sehnsucht</i>	<i>Der Genezende</i>	300
大なる憧憬	<i>Das andere Turnheld</i>	<i>Von der großen Sehnsucht</i>	308
第二の舞の歌	<i>Das andere Turnheld</i>	<i>Das andere Turnheld</i>	312
七の印章 (或は然らヒトアヘンの章)	<i>Die sieben Siegel (Oder: Das Ja- und Amen-Lied)</i>	<i>Das andere Turnheld</i>	318

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

第四部

Vierter und letzter Teil

蜂蜜の供物	Das Honig-Opfer	325
危急の叫 王と談る	<i>Der Notshrei</i> <i>Gespräch mit den Königen</i>	330 335
蛭	<i>Der Blutegel</i>	340
妖術者	<i>Der Zauberer</i>	344
退職	<i>Außer Dienst</i>	354
いと醜き人間	<i>Der häßlichste Mensch</i>	360
志願の乞食	<i>Der freiwillige Bettler</i>	366
影	<i>Der Schatten</i>	371
正午	<i>Mittags</i>	376
挨拶	<i>Die Begrüßung</i>	380
晩餐	<i>Das Abendmahl</i>	387
高人	<i>Vom höheren Menschen</i>	390
憂鬱の歌	<i>Das Lied der Schwermut</i>	403
知識	<i>Von der Wissenschaft</i>	411
沙漠の娘等の間に	<i>Unter Töchtern der Wüste</i>	415

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

SAMPLE Shoshi-Shinsui.com

覚醒	Die Erweckung	425
驢馬祭	Das Eselsfest	430
醉歌	Das trinkende Lied	435
標微	Das Zeichen	445
シマラムカスメラ解題
生田長江とい一季の翻訳	462	生田 長江	450
索引	476	*	

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

文語訳

ツアラトウストラかく語りき

凡例

一、本書の底本はニイチエ著、生田長江訳『ツアラトウストラ』（日本評論社版ニイチエ全集7、昭和十年四月十七日発行）である。生田訳『ツアラトウストラ』諸版と底本の関係については本書巻末の解説文「生田長江とニイチエの翻訳」に記した。索引は本書発行所が作成したものである。

一、訳者生田長江は諸版を通じて訳書名を単に「ツアラトウストラ」としているが、原作題名がAlso sprach Zarathustraであること、また底本訳者解題中においては「ツアラトウストラかく語りき」の文言を使用していること、そして文語調という特性を表現するのにその文言が相応しいことから本書における作品名表記は「ツアラトウストラかく語りき」とした。

なお原作題名Also sprach ZarathustraにはEin Buch für Alle und Keinenの副題が添えられている（英訳A Book for All and None）。一、底本は旧漢字表記であるが、本書では新漢字で表記した。また、現今漢字表記されることが稀になった語句のいくつかは仮名表記に置換した（置換したものはこの凡例末尾に列挙）。生田自身の表記が漢字／仮名で揺れているものも少なからずあるが、凡例末尾に列挙したもの以外は底本のままである。

一、送り仮名は原則底本のままであるが、例外として送り仮名を補つたものが少数ある（送り仮名を補つたものはこの凡例末尾に列挙）。

一、仮名遣いは現代仮名遣いを使用した。「あらむ」などの助動詞の「む」は「ん」に置き換えた。「出づ」「恥づ」の類も「づ」で表記した（「出づ」は「出ず」と読み仮名ルビを必ず添えて、誤読を避けた）。

一、底本において訳者生田は凡例として記してはいないが、(1)原文におけるゲシュペルト（字間あけ）にはこの傍点が使用され、(2)平仮名による日本語表記上の読み易さのために訳者が便宜的に付加した傍点としてはこの傍点が使用されている。本書においては、(1)の傍点はこの傍点に、(2)の傍点はこの傍点に置き換えた。なお、底本はこの傍点を原文引用符内でさらに引用符のついた短い語句にも使用しているので、この場合は『』括りの表記として傍点は外した。生田訳でもこれでいる「ゲシュペルト→傍点処理」を補うことはしていない。

一、（ ）括りの行内二行割注は本書発行所による語義などを記した便宜的な参考注記である。そのうち＊で始まるものは、(1)翻訳としていかにも理解しがたい語句や文章、(2)翻訳として文脈上誤解のありうべき表現や誤訳の類、などについて、

現今の代表的かつ最新の訳業でありニーチェ研究の深化を反映した解釈も織り込んで頗る分かりやすく訳された訳業（白水社版全集・蘭田宗人訳『ツアラトウストラはこう語つた』）に照らして、当該箇所を謝意を込めて引用し、文語調生田訳の瑕瑾を補うものである。

一、難読と思われるものなどに読み仮名ルビを補つたところがある。底本のルビのうち不要と感じられるものは削除した（例 傷つき、様々、^{ます}上に、など）。

一、底本において外来語が平仮名で表記されているものは片仮名で表記した（例 がらす、みいら、ぶりき、きす、等）。その語に、平仮名表記であるが故の傍点が付されている場合は、片仮名化に伴つてその傍点は外した。

一、底本が使つている鈎括弧の包含関係は「」」」の形式であるが、本書では逆に「」」とした。ただし、引用符で括られる一つの発話が数ページにわたつていて鈎括弧の包含関係が生じているような場合は、「」」が頻出すると煩いので、「」「」「」ではなく「」「」「」」」」の形式とした。

一、底本の日本評論社版と、日本評論社版の前の版である新潮社版を対照して、日本評論社版で新たに生じた誤植と言えるものは、新潮社版の表記に訂正した。

一、送り仮名を補つたものは五十音順に次の通り（活用するものは終止形のみを例示）。

味い→味わい、卑う→卑しゅう、悲む→悲しむ、傷く→傷つく、苦む→苦しむ、先つ→先だつ、樂む→楽しむ、名く→名づく、安ず→安んず、横る→横たえる、横たわる、横ぎる（助詞と文脈から判断）

一、仮名表記に置換したものは五十音順に次の通り（送り仮名は代表例を、活用するものは終止形のみを例示）。
嗚呼、啞嚙、阿弗利加、雖も、聊か、伊太利（解題中のみ）、苟くも、愈々・愈、況んや、印度、斯く、此（かく、これ、この）、曾つて、加持力、希臘、基督（解題中のみ）、倘て、扱て、而し、併し、屢々、瑞西（解題中のみ）、已に、乃ち、須らく、其、抑も、啻だ、忽ち、為め、独逸、兎も角・兎もあれ角もあれ、尚お、乍ら、勿れ、為す、諸垂、呪（解題中のみ）、可し、希伯樂、波斯（解題中のみ）、亦、儘、寧ろ、齋す、固より、稍や、動も、猶太、歐羅巴、拉甸、羅馬

* なお、生田訳文中に頻出する「我にまで」「彼にまで」の「にまで」は、「～にとつて」「～に対しで」といった意味として読まれるべき用例が多い。

訳者の序（第一）

（新潮社版ニイチエ全集第五巻への序）

「ツアラトウストラ」の私の最初の訳本は、一九〇九年の初夏に起稿され、凡そ二十箇月近くに亘る文字通り専心の努力を経て、一九一〇年の暮に脱稿されたのであった。

それから十年を過ぎた今年の三四月頃になつて、私は別に誰からも強いらねしのばなれない、加之、勧められさえもしない「ツアラトウストラ」の改訳を、寂しい心持の中にひとりでこつこつとやり出した。そして殆んど以前のより以上のとさえ云いたいほどの苦心に苦心を重ねて来て、丁度今、この改訳本の最後の頁を書き上げたところである。

この改訳本が最初の訳本に比べて、どれだけ部分的にも全体的にもより誤の少いものになつてているか、どれだけ原著の内容にも形式にもより近くなつてゐるか、又特に、どれだけ独立の芸術品として見てもより価値あるものになつて來ているか、というようなことに就ては、訳者たる私自身から何も言うべきでない。ただ、この改訳本に於ても最初の訳本に於けると同じく、所謂口語体なるものからかなり遠い文体を取らざるを得なかつたことに就いては、一言その理由を述べて置くことの必要があるよう思う。

私の見るところを以てすれば、ルウテル訳聖書のドイツ語をその大体の基調にしてゐるらしい「ツアラトウストラ」の様式は、つねに簡明であると共に高雅である。単純であると共に蒼古である。謂わば未来派的に限りな

く自由であると共に、総ての尚古主義を超えて尚古的であり、最も厳密なる意味に於てカトリック的である。
ああした高雅な、蒼古な、尚古的カトリック的な原著の様式が、私のお粗末な改訳本にどれだけ保存されているかは暫く^{おもよ}書き、それを訳出する上に所謂口語なる現代語の一体が、ただに上乗の物でないのみならず、むしろ甚だ不便なるものであるということだけは、私の敢て断言するに躊躇しないところのものである。

一九二一年十月二十二日

東京にて 生田 長江

SAMPLE Shoshi-Shinsui.com

訳者の序（第二）

（日本評論社版ニイチエ全集第七巻への序）

ニイチエは三三十年以前にその生国ドイツに於て一度経験した所のものを、この日本へ渡つて来てから再びまた経験しなければならなかつた。即ちその太陽は地平線を出外れた当座こそ、いささかその朝らしき新鮮な光を地上に浴びせかける事が出来たばかりで、やがて間も無く難解や無理解や誤解の狹霧に依つて遮られ始め、遂に大空一杯に拡がる閑却と黙殺との暗雲に全く包み隠されて、綺麗に抹殺されてしまつた。然かもこの事は、宛もソヴィエット・ロシアがこの国にまで拡大されて来たかの如く、社会科学と称する信条的問答示教的な、大ききなまた小さな小冊子的述作の洪水が、押し流してしまつたに思われた拾数年来のこの国の読書界に於て、取分けそうであつた。

そしてニイチエの翻訳者としての私の運命も、原著者のそれより何等のより朗らかなものもあり得なかつた。

何故といつて、今から十年前、最初のニイチエ全集の最後の一冊を私が刊行し終つた後に到つても、私は只、あの長い間のニイチエとの共同生活から深く慰め励まされたり啓発されたりしたこと、並びにともかくもあの仕事を通して日本と日本の文化とに対し、いくらかの寄与をなしたと自ら思い得ること、この二のこととに依つてのほか、精神的にも物質的にも未だ全く酬いられないでいるからである。

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

だが極々最近に及んで、学界思想界に於ける一般的風潮に一転化の萌しが見えると共に、少くとも上層読書界は俄然ニイチエとニイチエ的なものへの興味を取り返し始めたかのよう感がある。

さてかくの如き形勢に応じて私の訂正増補ニイチエ全集も刊行される事になったのであるが、従前のものに比して、全集と呼ぶに一層適わしいものを作り上げるために、これ迄訳し残されていた所のニイチエの初期的述作及び書簡の全部が訳し加えられねばならなかつた。次には殆んど改訳に等しい程の苦心を払つて迄も、従前の総ての訳本に重要な多くの改訂修正が施され、また各巻末毎に適切な解題が添えられねばならなかつた。そして最後には、全集の總てに対する十分に細密な索引（（五百頁組））が附加されねばならなかつた。

ところで種々の事情から、新しい全集の劈頭先ず刊行さるべきものとして選ばれたヴァラトウストラは、かつて最初の全集の計画される以前に於て単行本として一度訳出されたものであり、最初の全集に於て二度目の訳出、即ち完全な改訳であつただけに、翻訳その物に就いて云えば可なり入念に出来上つていたのではあるが、なお且つ印刷上の不注意なぞから、意外な間違を生じているような点もあることに気付いたので、恐らくは他の訳本に於ける場合と同様以上の注意深さでもつて、その改訂に從わねばならなかつた。しかもこの仕事に対して如何に重大な意義が置かれていたかは、私がそのため近頃折角油の乗りかかっている創作「釈尊」の執筆を、二月近くも中断してしかも深く意に介しなかつたという事に依つても、十分察して頂けるであろうと思う。

なおツアラトウストラの文体が、主としてルーテル訳のドイツ聖書から学ばれているという事に就いては、かつて一言した事もあるよう思うのだが、あれを邦訳する場合の私もまた、邦訳聖書——特に明治の初年にプロテスタント諸派の人々に依つて訳出刊行されたものから、大いに学ぶところがあつた。

序ながら、近頃一般に行われている新しい訳の聖書と、右に挙げた旧い聖書とを較べて見ると、言語学上神学上等の見地から、新しい訳の方がどれだけより忠実なものに改善されているかは知らないが、その様式が潑刺として居り、又宗教的熱情の充実しているように感じられる点から言えば旧い訳の方が、余りにも段違いに私共の

SAMPLE
Shows his Shintomi.com

趣味により叶つたものであり、これに対しても新しい方は忌憚なく言うと殆んどお話にならない程の悪文であると思ふ。

ともあれ幸にして十五六歳の時から親しんで来た所のあの旧い訳の日本語聖書は、私がツアラトゥストラを訳出する場合の様式選定に、何よりも先ず役立つて呉れたのであるが、なお莊重森嚴蒼古といった風な調子を補うために、私は古事記並びに祝詞^{のつとせんみじゆ}宜命の如き古典文学を、わざわざ又勉強しなければならぬと思つた。（この方面の勉強は、あとでホーマーのオディッシーを訳出する時にも、いくらか役立つてゐるかも知れない。）

なおニイチエ自身が、「私の文章は本来ラテンの調子で書かれている」と言つてゐるのに対して、ニイチエの翻訳者なる私は、「私の文章は本来、謂わば私共のラテンであるところの、漢文の調子で書かれている」と言い得る位、ツアラトゥストラを訳する場合などにも、漢文も取り分けずつと古い時代の漢文や漢訳仏典等の様式を利用したのではあるが、しかし、支那的インド的な或る一定の教派や学派のニュアンスを、余り濃厚に持ち過ぎているような言葉なぞは、可成り潔癖にこれを避けるようにと心掛けた心算である。

一九三五年四月五日

東京代々木山谷にて 生田長江

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

ツアラトウストラかく語りき

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

SAMPLE

Shoshi-Shinsui.com

Friedrich Nietzsche

ALSO SPRACH ZARATHUSTRÀ

Ein Buch für Alle und Keinen

1883-1885

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

(第一部)
SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します

SAMPLE Shoshi-Shinsui.com

ツアラトウストラの序説

Zentneras Vörösmarty

一

ツアラトウストラは三十歳の時、その故郷とその故郷の湖みずうみとを去りて山に入りぬ。その処に彼はその精神とその孤独とを享樂し、十年を経て倦むことなかりき。されど遂に、彼の心機は一転せり。ある日の朝、黎明と共に起き出おひでで、太陽の前に歩み寄りて、かく彼は太陽に語りき——

「汝おおい、大なる星よ。汝によりて照さるるところのものなくば、何の幸福なることか汝にあらん。

十年の間あいだを、汝はこの我が洞にのぼり来きだりき。我と、我が驚と、また我が蛇とのあるにあらずば、汝はその光とその道とに倦じたりしなるべし。

されど我等は朝毎に汝を待ち、汝の横溢を受け、その事の故に汝を祝福せり。

見よ。わが我自らの叡智に倦じたるは、あまりに多くの蜜を集めたる蜜蜂のごとし。我はこれを得んとて差し伸べらるるところの手をもとむ。

我是賢き人々が人々の間に今ひとたび自らの愚かなるを悦び、貧しき人々が今ひとたび自らの富めるを悦ぶに至るまで、我自らの有てるものを配わけち与えんことをねがう。

されば汝が日々に、海のあなたへ入りつつも、光を幽界にもたらすときのごとく、我もまた深きところへ降り行かざるべからず。汝、豊饒なる星よ！

我是汝のごとく没落せざるべからず（わが降り行かんとするところの人々、これを称して没落と云う）。

されば汝、甚大の幸福をも嫉視することなき平静の眼まなこ、われを祝福せよ。

将に溢れんとする盃を祝福せよ、金色なる水のこれより流れ出で、汝が悦楽の反照を到る処に運び行かんことのために盃を祝福せよ。

見よ。この盃は再び空しからんとす。しかしてツアラトウストラは再び人間とならんとすなり。」

——かくしてツアラトウストラの没落は始まりき。

二

ツアラトウストラはただ一人山を下りしが、途に相会うものなかりき。されど彼が森に入りし時、たちまち一人の老人ありて彼の前に立ちぬ。食うべき根を森に求めんとて、その精舎を出でたりしなり。さてツアラトウストラに語りて言う。

「この漂泊者は我にとりて未知の人に非ず。多くの年の前に、この処を彼は過ぎりき。ツアラトウストラと呼べりき。されど彼は変りたり。

かの時汝は、汝の灰を山に運びき。今汝は、汝の火を谷に運ばんとするか。汝は放火者の刑罰を懼れざるか。さなり、我是ツアラトウストラを見覚えたり。彼の眼は清く、彼の口の辺には何等のいとわしき影もなし。彼はあだかも舞踏する如くして行くものにあらずや。

ツアラトウストラは変りぬ。ツアラトウストラは小児となりぬ。ツアラトウストラは覺者なり。汝いま眠れる人々の間に何をかなさんとする。

汝は海に住むごとく孤独に住みき。しかして海は汝を受け容れたりき。ああ、汝いま陸に上らんとするか。ああ、汝再び自らの身体を曳き行かんとするか」と。

ツアラトウストラ答えき、「我は人間を愛す」と。

聖者は言えり、「如何なれば我は、森に行き、野に行きしか。これわが人間を愛することのあまりに甚しかりしが故に非ずや。

今や我は、神を愛して人間を愛せず。人間は我にとりて、あまりに不完全なる事物なり。人間に対する愛は、我を亡ぼさずんばやまざるべし」と。

ツアラトウストラ答えき、「我は愛に就きて何を言ひしやたらしたり」と。

(*となぜわらしたは、要するなど)。我は人間に施与すべき物をも

聖者は言えり、「彼等には何物をも与えざれ。むしる彼等の物を取りて、彼等と共にそれを負え。そが、いやしくも汝にとりて悦ばしからんには、彼等にとりてはいと悦ばしかるべきなり。

しかして、汝もし彼等に与えんことをねがわば、施物のほかに何物をも与えざれ。施物もまた、彼等をして乞い求めしめよ」と。

ツアラトウストラは答えき、「否、我はいかなる施物をも与えじ。我はさまで貧しきものにあらざるなり」と。聖者はツアラトウストラを笑いてかく言えり、「さらば、彼等をして汝の宝を受けしめんことのため心を用いよ。彼等は隠者を疑い、我等の施与せんとて来れることを信ぜざるなり。

我等の跫音は余りにさびしく彼等の街に響く。すなわち夜、彼等の床にありて、日出の長き前に、ある一人の行けるを聞くときのごとく、彼等は自ら聞いて言うなるべし、『かの盜人は何處に行くや』と。

人間に行かずして、森に留まれ。むしろ禽獸に行け。如何なれば汝は我のごとく、熊の中なる熊として、鳥の中なる鳥としてあることをねがわざるか」と。

「さて聖者は、森にありて何をかなす」と、ツアラトウストラは問いき。

聖者は答えき、「我は歌を作りて、これを歌う。歌を作るとき、或は笑い、或は泣き、或は呟く。かくして神を讃ずるなり。

歌うこと、泣くこと、笑うこと、呟くことをもて我は、わが神なるかの神を讃ずるなり。されど汝は、如何なる施与をか我等にもたらしたる」と。

ツアラトウストラはこれ等の話を聞きしどき、稽首して聖者に言えり、「我は汝等に与うべき何物をか有たん。されど、わが汝等より何物をも取らざらんことのため、我をして速かに去らしめよ」と。かくて彼等は、老いた

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

ると若きとは、二人の童わらわの笑うがごとく笑いつつ相別れき。

されど、ツアラトウストラただ一人になりし時、彼はかくその心に語りき、「不可思議の事なるかな。この老いたる聖者はその森にありて、未だなお、神の死したることを知らざるなり」と。

三

ツアラトウストラは森に続く最寄りの市に來りし時、その処にして多くの人々の市場に集まれるを見出でいき。そは踏索者つなわたりの技を觀ることを得んと言われたりければなり。すなわちツアラトウストラはかく人々に語りき。
『我は汝等に超人おほひを教う。人間は超克せられざるべからざる或物なり。汝等は人間を超克せんことのために何をかなしたる。

すべての物はこれまで、それ自体を超えたる何等かの物を造りたり。さて汝等はこの大なる潮の退潮しおのひきしおとなり、人間を超克するよりもむしろ禽獸けいじゆへ引き返さんことを欲するか。

猿猴えんこうは人間にとりて何物ぞ。笑柄しゃくへいのみ、或は痛ましき陰所かげじょのみ。しかして人間も超人おほひにとりては同様なるべし。笑柄のみ、或は痛ましき陰所かげじょのみ。

汝等は虫より人間に進みき。しかも汝等の中なる多くのものはなお虫なり。かつて汝等は猿猴なりき。今もなお人間は、如何なる猿猴よりも猿猴なり。

汝等の中なるいと賢き者も、植物と幽靈との間生たり雜種たるにすぎず。されど我は汝等に、幽靈もしくは植物たらんことを命ずるものならんや。

見よ、我は汝等に超人おほひを教う。

超人は地の意義なり。汝等の意志をして言わしめよ——超人が地の意義ならざるべからざることを。切に願わくば、我が兄弟等よ、あくまでも地に忠なれ。しかして汝等に天上の希望を説くところのものを信ぜ

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

され。彼等は自ら知れると知らざるとを問わず荼毒者(とどく)
(盛る輩)なり。

彼等は生命の侮蔑者なり。死滅する者、それ自ら荼毒せられし者なり。地はこれらの人々に倦(うん)じたり。されば彼等よ去れ。

かつては神を瀆(けが)すこと、いと大なる褻瀆(せつとく)なりき。されど神死したれば、この褻瀆者も共に死したり。今やいと恐るべきは、地を瀆すにあり。また思議すべからざるもの内の内臓を地の意義の上に置くにあり。

かつて、靈魂は肉体を蔑視したりき。そのときこの侮蔑は最高のものたりしなり。靈魂は肉体の痩せ衰えたるを、すさまじくなれるを、飢餓にせまれるをねがいき。かくして肉体と地とより脱却せんことを思いしなり。

ああ、かかる靈魂はそれ自体がまた瘦せ衰えたる、すさまじくなれる、飢餓にせまれるものなりき。しかして残酷はかかる靈魂の樂欲(よきうよく)（願い望む）なりき。

されど我が兄弟等よ、汝等もまた我に語れ。汝等の肉体は汝等の靈魂に就きて何をか告ぐる。汝等の靈魂は貧窮と、汚穢と、はたみじめなる安逸とにあらざるか。

げにや、人間は濁流なり。自ら濁ることなくして、よく濁流を客るを得んがためには、人はすべからくまさに海とならざるべからず。

見よ、我は汝等に超人を教う。超人はかの海なり。汝等の大なる侮蔑はよくその中に陥没するを得ん。

汝等が体験し得べきいと大なるものは何ぞや。大なる侮蔑の時これなり。汝等の幸福も、並びに汝等の理性、汝等の徳もなお且つ汝等の嘔吐を催さしむるの時これなり。

その時汝等は言う、「我が幸福は何物ぞ。ただ貧窮と、汚穢と、はたみじめなる安逸とに過ぎず。我が幸福はそれ自ら存在の理由を提供せざるべからざりき（＊わたしの幸福とは生存そのもの）」と。

その時汝等は言う、「我が理性は何物ぞ。その知識を追うこと、獅子のその食を追うが如きものありや。そはただ貧窮と、汚穢と、はたみじめなる安逸とに過ぎず」と。

その時汝等は言う、「我が徳は何物ぞ。そは未だ我を熱狂せしめたることなし。如何に我は我が善と我が悪とに倦じたるかな。そはすべて貧窮と、汚穢と、はたみじめなる安逸とに過ぎず」と。

その時汝等は言う、「我が正義は何物ぞ。我は、我の炎熱たり炭塊たるを見ず。されど正しき者は炎熱なり炭塊なり」と。

その時汝等は言う、「我が憐憫は何物ぞ。憐憫は人間を愛する者の磔はりつけかるる十字架にあらずや。されど我が憐憫は磔刑にあらず」と。

汝等は既にかく語りしか、汝等は既にかく叫びしか。ああわれ、汝等のかく叫ぶを聞きたらましかば。呪咀すべきは汝等の罪惡にあらずして、汝等の知足なり。汝等の罪惡に於ける汝等の吝嗇(*罪惡にさえ染み) そのものなり。

その舌をもて汝等を舐なむるところの電光(妻*稻) は何處にありや。それをもて汝等へ種痘せらるべき乱心は何處にありや。

見よ、我は汝等に超人を教う。超人はその電光なり。超人はその乱心なり」と。
ツアラトゥストラかく語りし時、群衆の中なる一人は叫びぬ、「我等はいま踏索者(*なわたり)に就きて聞きしこと足れり。いま我等をして更に彼を見しめよ」と。さて人々は皆ツアラトゥストラを笑いぬ。されど、踏索者(*なわたり)と呼ばれしを自らの事なりと思える踏索者は、やがてその業にとりかかりぬ。

四

されどツアラトゥストラは人々を見て驚きぬ。さて彼はかく語りき。

『人間は禽獸と超人との間を繋ぐ一の索なり。一の深潭に懸れる一の索なり。超ゆるも危く、超え^了らざるも^(めるも) 危く、顧るも危く、戦慄し停留するもまた危し。

人間の大なるは、そが橋梁にして標的にあらざるところにあり。人間のよく愛し得べきは、そが一の過渡たり没落たるところにあり。

我はかの、没落者としてのほかに生くべき道を知らざる者を愛す。そは超越するとこらの者なればなり。

我は大なる侮蔑者(おむねいしゃ)を愛す。そは大なる崇拜者(おぶらいしゃ)なればなり。また彼岸への憧憬の箭(や)なればなり。

我はかの、没落して犠牲となるべき理由を先ず星辰のあなたに求むることをせず、むしろ地が他日超人の手に帰せんことのため、地に自らを献ぐるところの者を愛す。

我はかの、自ら認識せんことのために生くるところの者、また他日超人の生きんことのために認識せんとするところの者を愛す。かくして彼は自らの没落をねがえばなり。

我はかの、超人のために家を築き、超人のために地と禽獸と草木とを備えんとて、労作案出するところの者を愛す。かくして彼は自らの没落をねがえばなり。

我はかの、自らの徳を愛する者を愛す。徳は没落への意志、憧憬の箭(や)なればなり。

我はかの、一滴の精神をも己自らのために保有することなく、むしろ全く自らの徳の精神たらんことを欲するものを愛す。かくして彼は、精神として橋梁を超ゆるなり。

我はかの、自らの徳を自らの性癖となし、自らの運命となすところの者を愛す。かくして彼は自らの徳のため、或は生き、或は死なんことをねがうなり。

我はかの、あまりに多くの徳を追わざるもの愛す。一の徳は二の徳よりも徳なり。そはより多く、その運命の繋かるべき結節となるものなればなり。

我はかの、その靈魂の浪費さる者(るめいをひなぐくし)、感謝をねがわず、報復(ほふ)をなさざる者を愛す。そは常に与えて、自ら貯えんことを思わざればなり。

我はかの、賭博にかちたる時自ら恥ずるところの者、またその時、「我は不正の賭博者にあらずや」と自ら問

SAMPLE
Shoshin-shinsu.com

うところの者を愛す。彼は没落をねがうものなればなり。
我はかの、その行為にさきだちて金言を放ち、自らの約束したるより以上を履行するところの者を愛す。彼は自らの没落をねがうものなればなり。

我はかの、未来のもののために弁明し、過去のものを救済するところの者を愛す。彼は現在のものに依りて没落せんことをねがえばなり。

我はかの、その神を愛する故にその神を懲らしむるところの者を愛す。彼はその神の怒りに依りて没落せざるべからざればなり。

我はかの、負傷の際にもその魂の深きもの、一些事の体験のためによく没落するところのものを愛す。かく彼はよろこびて橋梁を超ゆればなり。

我はかの、その魂の横溢せるによりて、己自らを忘るるほどのもの、すべての事物のその中に在るが如きものを愛す。かくすべての事物は彼の没落となるなり。

我はかの、自由なる精神と自由なる心情とを有てるものを愛す。すなわち彼の頭脳は彼の心臓たるに過ぎず。されど彼の心情は彼を没落に驅るなり。

我はかの、人間の上に垂れたる暗き雲より、ひとつびとつ落ち来るところの、重き滴のことをきものすべてを愛す。彼等は電光の来ることを告示し、告示者として没落す。

見よ、我は電光の告示者なり。雲よりの重き一滴なり。されど、その電光こそは超人なれ》と。

五

これ等の言葉を語りし時、ツアラトゥストラは再び人々を見て黙しき。彼はその心に語りき。「そこに彼等は立てり。そこに彼等は笑えり。彼等は我を理解せず。我はこれらの耳にかなう口にあらざるなり。

生田長江とニーチェの翻訳

本書の訳者生田長江（本名生田弘治）は一八八二年鳥取県に生まれ、東京帝国大学哲学科卒業後、評論と翻訳の仕事を数多く刊行し、一九三六年に歿した。

翻訳家としての生田の最大の業績は、初の日本語版ニーチェ全集（個人完訳）である。生田が最初に手がけたニーチェの翻訳は『ツアラトウストラ』であったが、それは『ツアラトウストラ』の最初の日本語全訳版であり、またニーチェの日本語訳単行本としても最初のものでもあった。同書は、森鷗外による「沈黙の塔（訳本ツアラトウストラの序に代ふ）」を付して明治四十四年に新潮社より出版された。

生田の個人完訳ニーチェ全集には二つの版があり、最初のものは一九一六（大正五）年から一九二九（昭和四）年にかけて刊行された十巻構成の新潮社版『ニイチエ全集』である。その巻立ては次の通り。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 第一篇 人間的な余りに人間的な（上） | 第三篇 黎 明 |
| 第二篇 人間的な余りに人間的な（下） | 第四篇 悅ばしき知識 |
| 第五篇 ツアラトウストラ | 第六篇 善惡の彼岸 道徳系譜学 |
| 第七篇 権力への意志（上） | |

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

第八篇 権力への意志（下）

第九篇 偶像の薄明（外五編）＊反基督 この人を見よ ワグネルの事件 ニイチエ対ワグネル 詩

第十篇 悲劇の出生 季節はづれの考察

その後、十二巻構成の日本評論社版『新訳決定版ニイチエ全集』が一九三五（昭和十）年四月から翌年九月にかけて刊行された（初回配本は第七巻『ツアラトウストラ』）。生田は一九三六（昭和十一）年の一月に歿したので、この全集出版事業の完結を見ることはなかつた。巻立ては次の通り。

- 1 悲劇の出生 附 ワグネルの事件
- 2 季節はづれの考察
- 3 人間的な余りに人間的な（上）
- 4 人間的な余りに人間的な（下）
- 5 黎明
- 6 悅ばしき知識 附 放浪公子の歌
- 7 ツアラトウストラ
- 8 善惡の彼岸 この人を見よ（ニイチエ自伝）
- 9 道徳系譜学 偶像の薄明 反基督
- 10 権力への意志（上）
- 11 権力への意志（下）
- 12 書簡及び索引

*書簡 附録ニイチエ評伝 (Arthur Drews著Friedrich Nietzsche Philosophic抄訳)

総目次 索引

訳者生田の死去と新訳版全集刊行事業の関係については、以下のいくつかの資料から推察することができる。死去前年八月刊行の第九巻（第五回配本）の訳者の序文は次のようなものである。

『人並に健康な日を有つことの滅多にないやうな我々が、天候の順不順などを言ふのもをかしなものではあるけれども、ともあれ、本年の土用入り時分の前代未聞な暑さ、蒸し暑さと、八月も未だ中旬の中からしての、あの幾年振りかの涼しさ、といふよりも寧ろかなりの程度の寒さとは、念入りな消化不良や風邪ひき等をさんざ反復させた上、結局この春以来の月々の予定を、すっかりぶち壊して了つた。

その上、希臘語、羅典語、並びに独逸語以外の近代歐洲語への訳註を、少なからず書き改めたり、又書き加へたりするといふ、あの煩瑣な誠に骨の折れる仕事（この仕事其他に於て、生田幸喜と生田まり子との二人がいつも与へてくれる一方ならぬ助力に対しても、序乍らこの所に私の衷心からの感謝を表示して置きたい）が、この月の配本分に至つて俄然甚だしく増大して來た為、前述健康上の支障と相須つて、訳文の全般的修正その他へ十分没頭することが出来なかつた。

殊に、月報か何かに予告して置いた通り、ニイチエの初期的述作のどれだけかを新に訳出して、添付しやうといふ計画が、その実行を稍延期されねばならなくなつたといふのは、より大なる遺憾事である。呉々も諸君の御寛恕をお願ひして置きます。一九三五年八月』

この後の配本巻にも訳者の序文は付いているが（「下巻」のものは付いていない）、健康状態に關わる記述はみられない。そして生田死去後の最初の刊行となつた第十一巻（第九回配本）の附録リーフレットにある「社告」には次のように記されている。

『生田先生の御逝去に関して本全集続刊の可能性を御心配の向が多く色々御問合に接しましたが、訳稿は御生前すでに完成して居りましたので続刊には何の故障もありません。この点読者諸氏の御安心を願ひ上げます。たゞ御葬儀その他のため刊行がおくれましたことと、ノート整理上、各巻の構成について或る程度の異動があることは、御諒承を願ひます。（編輯部）』

最終配本の最終巻には生田幸喜による「跋」が収められた。その冒頭は次のようなものである。

『今回のニイチエ全集は此の十二巻を以つて愈々完結することとなつた。

本年一月初旬、訳者である叔父長江の死に依つて、本全集の最初の予定が一部分変更の余儀無きに至つたことを読者諸氏に対して深く詫びなければならぬ。その為めに新たに訳出し加へらる可き筈であつたところの、ニイチエの極めて初期に属する断片的作品が、遂に翻訳中途にして残されねばならなかつた。けれ共訳者の死が甚だ予期しないものであつたにも拘らず、その後刊行さるべきものに対するは、それ迄に大体の準備の出来てゐたことを、切めてもの慰めであつたと思ふ。』

尚、生田訳『ヴァラトウストラ』は右記の全集版、最初の単行本版の他に、生田生前の版に限れば、春陽堂版世界名作文庫（二分冊、昭和七年八月刊）がある。

生田による個人完訳の、日本語初のニイチエ全集は右に記したような時代のものであつたが、その後、日本語のニイチエ全集は左記の順に出版されてきた（頓挫したものと「全集」の名に値しないものは除く）。いずれも複数の訳者が分担した全集である。

新潮社版 一九五〇年～五一年

理想社版 一九六三年～七〇年（その後ちくま学芸文庫版となる）

白水社版 一九七九年～（原書既刊分の第Ⅰ期と第Ⅱ期各十二巻は一九八七年までに刊行済、第Ⅲ期末刊）

*

生田個人完訳の全集は、『ニーチェ事典』（一九九五年、弘文堂刊）所収の三島憲一著「さまざまなニーチェ全集について」において、『これには現在では歴史的な価値以上のものはないであろう。』と位置づけられている。

また、白水社版ニーチェ全集・別巻『日本人のニーチェ研究譜』（一九八二年刊）所収の西尾幹二著「この九十年の展開」においては、生田の『ヴァラトウストラ』訳文について、『翻訳の水準や程度については、経験を重ねて来た現代の立場からとやかく言うのは酷であり、不公平であろう。』と記されている（引用箇所の文脈は生田の初訳版を論じるものであるが、改訳版についても恐らく同様の評価となるう）。

翻訳の、洗練された正確さ、そして同時代的文章表現等の点において「歴史的な価値以上のもの」はなくなつた生田の訳業だが、『ヴァラトウストラ』だけについて言えば、その訳文のスタイルにおいて好事家向けの独特の価値があると見る立場から本書は復刻されている。その意味するところは生田自身が訳者の序文で述べる通りである。

生田自身が巻頭の序文で述べるように、『ヴァラトウストラ』の翻訳においては選択的に文語調が採用されており、この文語調が持つ言わば音と調子の魅力とでもいった点はまた別のこととして、文語調が感じさせる『時代がかつた感じ』もまた、スタイルとしてむしろ相応しいかと思わせる話がある。（以下引用、『ニーチェ事典』所収、蘭田宗人著『『ヴァラトウストラはこう語つた』の項より）

『たしかに『ヴァラトウストラ』の文体がもつ形象の豊かさと力動感は圧倒的なものであり、これがまず一九〇

SAMPLE
Showdownui.com

○年前後の若い人々の心を捉えたのであった。ただし、あまりにも大仰で歌舞伎的なこの文体は、今から見ればやや滑稽であり、たとえばガーダマーは、「ヴァーグナーの楽劇に似た、そしてあまりにも仰々しく旧・新約聖書をまねた」この文体は、すでに三〇年代の青年たちには空々しいものであった、と回顧している。』

聖書とのスタイルの類比については生田自身も序文に記しているが、『ツアラトウストラ』の日本語訳者の一人である手塚富雄もその点を指摘している。（中央公論社版『世界の名著 ニーチェ』附録リーフレット、三島由紀夫との対談録「ニーチェと現代」、一九六六年刊。）

『三島 こんど『ツアラトウストラ』を新訳されて、わかりやすく、しかも美しい日本語で原作の風味を出すといふことは、なかなか大変でございましたでしょう。原文はよく知りませんけども、非常に古語や不思議なことばを使っているんですか。』

手塚 そうですね。古語やむずかしいことばは、あまり使っていませんね。リズムと緊張度が特異なんで、ことばそのものは、あたりまえのものが多いですね。『ツアラトウストラ』のスタイルはバイブルを見本にしますから、どうしてもそうなりましょう。単純なことばに深い意味と力感を盛ろうとして。ただ、熱意があまりたり、調子がはずんだりして、けたはずれの表現をして、イメージがはつきりしないで、手こずらされることはよくあります。』

生田のニーチェへの関わり方に對して、現代のニーチェ論者からの高い評価は目に付き難いが、手塚富雄の生田觀は短い文章ながら興味深い。（同右『世界の名著 ニーチェ』所収、手塚富雄著「ニーチェの人と思想」末尾より。）

『生田長江は実存的に最も深くニーチェに親しんだのではないかと思う。ニーチェについては、論述より翻訳に

力を注いだようで、それは特異な張りのある文体だった。長江は、どう控え目に見ても、ニーチェのいわゆる高人に列する人である。』

*

以上、生田長江の個人完訳ニーチェ全集、および『ツアラトウストラ』の翻訳に関する書誌情報と、さらに幾つかの引用による関連事情を紹介したが、ニーチェへの生田長江の関わりを簡潔に紹介する文章として現今最も公共性の高いと思われるものを前掲『ニーチェ事典』より引用し、同書がお手元にない読者の参考に供したい（杉田弘子著「生田長江」の項）。

『明治三四年頃、ニーチェの死に続いて日本の文壇では登張竹風や高山樗牛を中心にニーチェ論議がさかんになつたが、当時長江は一高の生徒であつた。明治三六年七月、東京帝国大学哲学科に入学したが、二〇年代にすでにニーチェについて講義をしたといわれるケーベル博士や、ドイツ留学をおえて帰朝したばかりの姉崎嘲風（樗牛の親友）の講義を聞いたことは、ニーチェに対する長江の興味を深めたことであろう。長江がニーチェについて最初に述べた文章は、帝大へ入学したばかりの明治三六年八月、『明星』掲載の「輕佻の意義」と題する一文である。この文は、昨今のニーチェ論議の根底をなすニーチェ理解の浅薄さを批判し、「思ふに通読せずして批評し得らるべきものは、多士済々たる我文壇の產物のみ」と痛烈に皮肉っている。事実この時代にはまだニーチェの著作の完全な邦訳はなかつた。そこで長江は、明治四二年五月から四三年暮れにかけて『ツアラトウストラ』の翻訳に没頭した。最初漱石に相談したともいわれるが、改造社版現代日本文学全集の年譜（昭和五年）には、「森鷗外先生の御宅へ度々推参して『ツアラトウストラ』の難解な箇所を教えて頂く」と本人自ら記している。こうして明治四四年一月、日本初の『ツアラトウストラ』の全訳が、鷗外の「沈黙の塔」を序にして新潮

社から刊行された。大正に入り和辻哲郎、阿部次郎らによる本格的ニーチェ研究が始まるが、長江はひき続いて他のニーチェの翻訳をめざし、個人でニーチェ全集二巻の完訳（新潮社刊）を果たした。これに長江は、大正五年の『人間的な』に始まり昭和四年まで十数年の歳月を費している。弁舌滔々として長江の如しという意味で上田敏から長江という号を与えられたというだけに、評論活動も華々しかつたが、ニーチェ訳は彼の仕事として最も大きなものであろう。この長江訳によってニーチェはほぼその全容を日本の読書界にあらわしたことになる。』

SAMPLE Shoshi-Shinsui.com

（書肆心水記）

442, 447

ら 行

- 駱駝……44, 46, 142, 271
利己……115, 180, 264, 266–268
良心……78, 84, 91, 96, 131, 179, 203, 254, 281, 296, 350, 380, 411, 413, 427, 431–432
隣人……33, 47–48, 72, 77, 84, 90, 93–94, 133, 145, 209, 243, 270, 278–279, 396
憐憫……29, 61, 72, 75, 130, 132–133, 136, 164, 223, 226, 240, 248, 261, 283, 303, 324,
331, 356–357, 361–366, 448
驢馬……65, 151–152, 257, 272, 335, 337–338, 380, 388–389, 401, 425, 427–430, 432,
434, 436–437

わ 行

- 我が意志……128, 165, 168–169, 206, 229, 246, 298, 356, 386
我が趣味……134, 171, 185, 272–273, 388
我が敵……87, 89, 123–125, 163–164, 245
鷺……24, 40, 124, 127, 144–145, 153, 269, 301, 307, 353, 370, 380, 392, 403, 408–409,
413, 437, 445

387

- 復讐……61–62, 82, 84, 97, 105, 131, 134, 138, 140–141, 146–147, 149, 156, 167, 203–204, 251, 261, 294, 357–358, 361, 368, 414
- 服従……33, 48, 75–76, 167–168, 212, 279, 295, 308
- 婦人……65, 85, 89, 100–102, 108–109, 159, 179, 187, 232, 271, 288, 318–322, 389, 391, 396–397, 404, 426–427
- 舞蹈……25, 32, 35, 65, 149, 158–160, 164–165, 236, 253, 267, 276–277, 294, 312–314, 319, 321–333, 374, 381, 399–402, 404, 412, 416, 421, 436, 438–439
- 侮蔑……28, 30, 32, 36, 39, 44, 55–57, 61, 68, 75, 84, 90, 97, 99, 116, 172, 189, 192, 224, 232, 243, 265–267, 277, 308, 319, 327, 345, 365, 391, 429
- 蛇……24, 40, 63, 104, 116, 124, 181, 208, 226, 266, 307, 314, 339, 353, 360, 370, 380, 403, 413, 437
- 冒険……167–168, 226, 280, 413
- 奉仕……56, 73, 77–78, 97, 117, 151–152, 168, 240, 250, 284, 381
- 牧人……38–39, 48, 125, 136, 226, 360, 377
- 没落……24–25, 30–31, 40–41, 57, 60, 63, 68, 92, 99, 119, 168, 180, 222, 275, 278, 280, 307, 327, 391, 393
- 末人……32–34, 297, 337
- 蜜……24, 112, 130, 147, 164, 218, 253, 325–326, 329–330, 333, 369–370, 381, 383, 442
- 未来……31, 93–94, 118, 136, 144–145, 148, 175, 202, 208–209, 242–243, 265, 276, 278, 282–283, 295–297, 308–310, 318, 329, 391, 398
- 民衆……34–35, 38–39, 58, 77, 81–82, 118, 137, 143, 147, 151–154, 166, 176, 187, 190, 200–201, 238–243, 249–250, 269, 286, 292–293, 295, 353, 363, 368
- 命令……75–76, 116, 167–168, 212, 279, 295, 382

や 行

- 勇気……64, 75, 97, 101, 218, 222–223, 253, 259, 289, 292, 381–382, 392, 395, 413, 438
- 遊戯……46, 101, 158, 175, 181, 249, 415
- 勇者……44, 70, 78, 134–135, 172–173, 289–290
- 友情……87, 89, 245
- 友人……87–90, 93–94, 131
- 妖術者……63, 350–354, 380, 403–404, 411–416, 427, 431, 436
- 欲望……44, 48, 101, 115, 182, 187, 266, 339, 376, 384
- 預言者……124, 195, 198–199, 268, 282, 304, 318, 330–333, 380, 386–387, 400, 427,

超克……27, 53, 61, 76, 88, 90–91, 107, 148–149, 164–165, 168–169, 171–173, 196, 212, 231, 277–279, 286, 365, 367, 391–392
超人……27–31, 34, 36, 39, 57, 61, 80, 88, 94, 101, 109, 118–119, 126, 129, 137, 148, 188, 206, 208–209, 277, 294, 307, 391–393
敵……35–36, 45, 61, 74–75, 87–89, 98, 104, 118, 123–125, 134, 140, 145, 149, 151, 158, 163–164, 169, 198, 222, 245, 269, 272, 277, 292, 318, 338, 340, 348–349, 401, 404, 407, 414, 425–426, 446
天使……59, 108, 172, 197–198, 309
同情……85, 88, 109, 156, 207
奴隸……75, 89, 151–152, 235, 267–268, 287, 368, 391, 428

な 行

内臓……28, 58, 78, 176, 179–181, 193, 364, 371, 426
南方……208–209, 276, 419
肉体……28, 35, 52–57, 63, 115–117, 144, 186, 265, 267, 278, 307, 428
虹……39, 80, 146, 302, 406
認識者……86, 342
認識する者……53, 117, 127, 130, 153, 169, 179, 181, 218, 281
認識の人……118
猫……89, 114, 179, 208, 234, 289, 400, 407, 419

は 行

俳優……81, 94, 207, 239–240, 350, 394
蠅……81–84, 240, 245, 261, 290, 327, 336
破壊者……39, 69, 77, 104, 142, 165, 170, 266, 281, 296, 433
蜂蜜……130, 147, 164, 218, 253, 325–326, 333, 369–370, 381, 383, 442
薔薇……158, 171, 301, 305, 321, 329, 400, 402, 410, 413, 439
反芻……48, 367, 370, 426, 441
美……91, 129, 136, 138, 149, 156, 171–173, 180, 189, 192, 231, 233, 384
羊……48, 136, 183, 280, 301, 313–314, 363, 388, 393, 408–409
比喩……109, 115–116, 127, 146, 149, 165, 179, 186, 189, 210, 226, 237, 247, 258, 283, 325, 340
評価……52, 90–91, 116, 128, 166, 169, 416
平等……146–148, 185, 195, 304, 330, 332, 343, 383, 390, 441
漂泊者……25, 194, 217, 229, 340, 354, 372, 374, 376, 415–416, 425, 427, 431
疲労……35, 47, 52, 71, 78, 128, 147, 177, 253, 268, 287, 289–290, 318, 330, 374, 377,

438, 440

- 重圧の精神**……65–66, 158–159, 222, 224, 269–271, 277, 425–426
祝祭……39, 94, 355, 388, 427, 434–435
祝福……24, 104, 108, 119, 124–125, 127, 130, 155, 231, 234–236, 243, 264, 266, 268, 299, 307, 321, 355, 358, 409, 439, 442
瞬間……61, 162–163, 224, 277, 378, 442
純潔……64, 138, 142, 163, 233–236
小児……25, 44, 46, 55, 100–101, 107–108, 112, 123, 128, 141, 172, 197–198, 211–212, 228–231, 237–238, 248, 255, 271, 285, 396, 399, 426–428, 430, 433, 441, 446
信仰……36, 39, 54, 81, 119, 127, 135, 164, 176–177, 187, 192, 195, 206–207, 256, 356, 373–374, 430–431
真実への意志……126, 151, 166, 169
正義……29, 63, 105, 139–141, 146–149, 185, 204, 240
生産……128, 167–168, 177, 180, 281, 283
生成……94, 115, 127–128, 166, 168, 180, 259, 276, 291, 306
生命……28, 56–57, 61, 72–73, 76, 111–112, 117, 143–144, 148, 153, 165, 168–169, 192, 276, 279, 301, 386, 436
寂寥なる者……98–99, 118, 123, 144, 221
善悪……39, 63, 77–79, 90–92, 97, 115–116, 148, 166–167, 169–170, 235, 267, 272, 275, 281–282, 314, 358, 428
善惡の彼岸……235, 314, 358, 428
戦争……55, 74–76, 101, 117, 148, 338, 388
戦闘……59, 75, 78, 168, 294
賤民……142–144, 265, 279, 283, 292, 335–337, 353, 368–369, 385, 390–391, 394–395, 399, 401–402
憎悪……54, 74–75, 77, 226, 304–305, 312, 362, 369, 395, 443
創造者……39, 51, 77, 81, 91, 94, 107, 116–117, 170, 304
創造する者……39, 91–92, 96, 99, 107, 109, 124, 127–128, 133, 170, 180, 202, 204, 228, 275–276, 296, 298, 364, 396

た 行

- 太陽**……24, 114, 116, 119, 145, 152–153, 155–156, 160, 172, 179, 182–183, 208, 222, 230–231, 233, 246–247, 276, 278, 289, 299, 307–309, 339, 376, 379, 415, 442, 445
探求者……151, 221, 226, 313, 353
男子……89, 100–102, 109, 179, 240, 404, 415, 426, 434
智者……47, 49, 55–56, 151–152, 154, 241, 268, 276, 342, 384, 389, 432, 442

- 救済……31, 53–54, 61, 152, 202, 204, 240, 278, 284, 310, 318, 320
教会……135, 192, 319
偶然……117, 231, 235–236, 242, 247, 277, 291, 319, 407, 420
偶像……78–79, 152, 245, 280, 373, 431
偶発事……201–202, 204, 217, 278
愚人……61, 72, 116, 220, 249–252, 261, 269, 281, 285, 342, 378
苦悩……51–52, 58, 72, 85, 97, 127, 132, 203, 223, 238, 301, 307, 312, 345, 364
蜘蛛……146, 148–149, 184, 224–225, 236, 242–243, 255, 268, 308, 319, 377, 438
刑罰……25, 105, 138, 141, 149, 203–204
結婚……107–109, 294
謙讓……144, 207–208, 211, 220, 241–242, 259, 267, 391
権力……79, 143, 146–149, 166–169, 173, 198, 204, 212, 266, 336–337, 363
権力への意志……166–169, 204
高処……67–69, 87, 96–97, 135, 144, 148, 233, 266, 308, 332, 365, 382–383, 385, 395
咲笑……64–65, 138, 197–198, 213, 216, 245, 257, 263, 326, 377, 400, 425–427, 441
高人……331, 333, 337, 344, 365, 381, 384, 389–396, 398–399, 401–404, 411–412, 414,
 425–427, 434–440, 442–443, 445, 447–448
肯定……46, 112, 234–235
幸福……24, 28, 33, 40, 49, 52–53, 62–63, 65, 79, 102, 116, 124–125, 144–145,
 147–148, 152–153, 155–156, 163–164, 172, 190, 207, 217, 221, 228–229, 231–232,
 236, 238–240, 245, 247–248, 260, 262, 265, 267, 277, 293, 303, 309, 325, 327, 329,
 332, 339, 341, 349, 354, 367, 370, 374, 377–378, 381, 385, 392, 400–401, 403, 407,
 426–427, 435, 439–440, 442–443, 445, 448
乞食……131, 164, 200, 250, 362, 368–371, 380, 388, 427–428
国家……77–80, 192–193
孤独……24–25, 36, 68, 79, 81–82, 96–97, 99, 107, 228, 382
- さ 行
- 沙漠……44–45, 59, 142, 152, 271, 416–417, 424
自我……51–53, 55–56, 61, 91–92, 268, 328
獅子……28, 44–46, 151–152, 212, 231, 265, 275, 287, 385, 401, 417, 422, 424, 446–448
詩人……127, 153, 186–189, 202, 253, 255, 276, 278, 289, 303, 350, 396, 406, 409–410,
 420, 441
嫉妬……57, 59, 82, 85, 87, 90, 98, 147, 155, 179, 193, 201, 231, 248, 257, 263, 368
自転……46, 96, 107
支配……56, 90–91, 107, 117, 143, 212, 240, 264–266, 292–293, 336–337, 391–392,

索引

あ 行

- 新しき価値……39, 45, 81–82, 192, 296
意欲……46, 52–54, 58–59, 63, 79, 107, 116, 128, 145, 152, 159, 166, 169, 180, 185,
 202–205, 219, 234–235, 239–240, 243, 254, 287–288, 291, 369, 394
運命……30, 83, 111, 128, 130, 183, 206, 217, 219, 228, 252, 271, 282, 298, 306, 309,
 327–328, 337, 351, 358, 392
永遠……138, 162, 204, 428, 432
永久……51, 108, 180, 196, 266, 277, 302–307, 316–322, 327–328, 372, 374, 378–379,
 422, 439, 441–444
永久回帰……305–307
永劫……223–225, 235–236, 303, 345, 358
叡智……24, 222, 233, 235–236, 238, 249, 253, 259–260, 264, 267–268, 286, 309,
 314–315, 322, 337, 352, 394, 401, 428, 429–430, 432
円環……139, 224, 301
嘔氣……127, 143, 172, 226, 297, 301, 305, 351, 367, 369, 383, 385, 404, 426
大なる正午……119, 252, 268, 277, 299, 307, 391, 448
重荷……62, 167, 177, 384, 428

か 行

- 回帰……217, 304–307, 318–322, 441
怪物……77–79, 92, 135, 171–172, 220, 283, 285–286, 303, 306
快癒……52–53, 202, 305–306, 427, 434, 436
学者……183, 395
価値……39, 45, 52, 56, 62–63, 76, 81–82, 91, 97, 114–115, 117, 119, 134–135, 148,
 166, 169–170, 192, 270–271, 281, 283, 296, 320, 336–337, 353, 373, 396
仮面……175, 181, 404, 406, 409
危険……35–36, 64, 68–69, 91, 101, 116–117, 156, 167, 206, 218, 220–221, 260–261,
 283, 295, 297, 306, 374, 390, 392, 412, 433
偽善……179–181, 192–193, 240, 270, 335
貴族……235, 283–284, 336